



府立高校「定員割れ」半数以上に、普通科は35／75校(昨年32校)

橋下徹氏「狙い通り」 「教育無償化」は“維新流ディール”

その先のアメリカ流「市場型教育『改革』」で教育は…

全日制普通科などの府立高校一般選抜の出願が締め切られ、全日制では128校中65校と半数以上の高校が、普通科では75校中35校が定員割れとなり、戦前からの伝統を引き継ぐような学校も定員割れとなり、大阪で先行する所得制限のない「教育無償化」拡大の影響が指摘されています。

北河内では18校中13校が定員割れ(昨年10校)、伝統校も

北河内の府立高校では18校中13校が定員割れとなっています。中には寝屋川、いちりつなど戦前から伝統が続く学校も定員割れとなり、大阪が先行する私学無償化の拡大の影響が指摘されています。

大阪では維新の会による府立学校条例で、3年連続定員割れで自動的に統廃合対象校とされ、すでにこのルールで 17 校が閉校となり、さらに 2024 年から 5 年間で 9 校程度の募集停止の計画が進められています。

このままでは、枚方含む北河内地域でも次々と「対象校」とされ、公立高校がなくなっていくことさえ懸念されます。

吉村知事 「公立統廃合当然」「自由に選べるように改革してきた」「学校どうし競争するほど質が向上」

吉村知事は、公立高校定員割れについて記者会見で問われて「少子化時代に再編統廃合は当然」「生徒が自由に選べるようにすることで、学校同士が切磋琢磨する」「学校どうし競争することで、教育の質は向上する」と強調し、「教育無償化拡大」の影響を否定しました。

さらに「これからの公立は「スーパーサイエンススクールなどの『勉強頑張る子どもたちの学校』と『課題があってそれを克服して個性を伸ばす学校』が必要」と述べ、それ以外は私立にゆだねるような発言をしています。

大阪でこの制度をつくった橋下徹氏(元大阪府知事)も、「学校の統廃合は必要不可欠」「公立はコストが高い」「狙い通りの政策効果」と、今回の定員割れについてコメントしています。

これでは、勉強もクラブや行事もやりながら、人間的な自立や成長と社会へつながる教育が期待される公立高校はなくなり、これを期待する層は、授業料以外の費用負担の重い私立高校しか選択肢がなくなります。

維新がモデルにするアメリカでは…

維新の会の「教育無償化」は、私立高校進学者にも 1 人当たりへ税金からの「補助金」を支出する＝「教育バウチャー制」といわれ、アメリカで広く行われています。

北河内の全日制府立高校 一般選抜 倍率		
普通科	寝屋川	0.94
	西寝屋川	0.55
	北かわち阜が丘	0.90
	枚方(国際総合)	1.08
	長尾	0.63
	牧野	1.16
	香里丘	0.96
	枚方津田	0.92
	いちりつ (理数 芸術)	0.93
	守口東	1.02
	門真西	0.70
	野崎	0.51
	緑風冠	0.92
交野	0.69	
文理学科	四条畷	1.44
総合学科	枚方なぎさ	0.86
	芦間	1.03
	門真なみはや	0.95

デトロイト市のあるミシガン州では、公立も私立も入学者数に応じて学校予算を配分する制度を導入して、学校同士の競争で教育向上を狙いました。

しかし、結果的には私立が「欲しい生徒集め」とテスト対策で高得点の教育に力を入れることで、生徒争奪に走ったため、公立高校は学校予算が苦しくなり、結果的に貧困層の多いデトロイト市は 2003 年から 2013 年の間に約 300 校あった公立学校は、96 校になってしまったと言います。(山本由美・和光大教授)

これが「教育バウチャー制」というものです。

「不人気」、「テスト成績悪い」公立校を企業に売却、企業は「効率化」で莫大な利益

以前から、アメリカでは学力テストの成績の悪い学校に「罰」として、教員給与が下げられ、教員を総入れ替えしたり、公立学校を廃校にして民間企業に売却・委託する(チャータースクール)などの対応が行われていました。(吉村知事も大阪市長時代に、学力テスト結果を教員評価、教員ボーナス、学校予算に反映させようとして、大きな問題となったことがあった)

企業は、保護者から多額の授業料・施設費を追加徴収したり、若く賃金の安い経験のない教員をやといて、先生が教えるのではなく、タブレットと ICT による個別の学習システムで授業をまかなうことで、経費を浮かせて、莫大な利益を上げ、経営者が高額な収入を得る例が次々現れています。

一方で、教員の30%以上のバーンアウトや、「粗悪な教育サービス」が広がり、子どもたちのドロップアウトも拡大し、地域の荒廃が顕著になっていると言われます。

富裕層の住む地域の学校は、保護者から多額の寄付金を集めることで、ベテランの教員を雇用し、テスト対策ではない豊かな文化、芸術活動、多彩な行事を取り入れた教育になっているとされます。

収入の格差が、教育の格差にストレートにつながる学校になっているとされます。(鈴木大祐「崩壊するアメリカの公教育」)

こんなことを求めているの？ 「教育無償化」の先にある教育・社会

「教育無償化」そのものは重要な施策であることは明らかです。

しかし、アメリカの例でも分かるように、維新の会が進める方針では国、府の財政負担を軽減する代わりに、保護者や子どもへの教育費負担を結果的に拡大し、大多数の子どもたちに教育内容の劣化をもたらすことが懸念されます。私学無償化は人件費にあたる授業料のみが府の財政負担であり、人件費が削りにくく施設設備にも多額の負担がある公立高校を統合して、私立無償化を進めるほうが、はるかに「安上がり」となります。

勉強もクラブも、友達と行事や社会に出るための勉強もしたいと思っても、近くには公立高校がなくなっていく。私立高校は生徒集め中心になり、授業を教える先生はほとんど非正規で、短期間で次々入れ替えられる、質の高い教育を求めれば、多額の費用負担が必要で余裕のある家庭しか望めない…

「教育無償化」に期待する大多数の人は、こんな教育を望んでいるはずはありません。

その先にどんな教育、そんな社会が待ち受けているのか、それこそ立ち止まって考えるべきです。

保護者「えっ？うちの学校、万博学校参加するの？」

4月の行事予定が配られ、保護者の中から、「えっ？うちの学校って、万博見学に行くんだ！」という声が出ています。

学校参加について、事前に保護者への連絡や説明が十分でないところでは、急に知らされたようになり、不安や疑問が今になって出てきています。

交野、吹田市などで安全対策など不安があると不参加を決め、豊中のように低学年は熱中症リスクから参加しないなどの動きが出ています。

学校としての参加判断の経緯、安全対策への対応など、十分な保護者への説明が求められるようになります。

「注文をまちがえる料理店」

間違ふこと、できないこと、失敗すること、
上手にできないこと・・・はいけないのこと？
だから人間、それでも大丈夫と思える教育こそ

「注文をまちがえる料理店」ハンバーグのはずが餃子が出てきた
間違いを受け入れ、楽しめるのが人間の本来の特性では？

NHKのプロデューサーの発案から始まり、各地に広まった認知症の人たちが接客する「注文をまちがえる料理店」の取り組み。

番組作成の取材のために訪れた、認知症の方が調理や配膳などをする施設での体験が原点といいます。ハンバーグのはずが、餃子が出てきて「違いますよ」と言いかけて、周りの人を見ると、誰も気にせず「おいし、おいしい」と食べている様子を見て、自分の方が恥ずかしくなってしまうと言います。

「こうあるべき」にこだわって間違いを指摘するより、みんなでおいしく食べるほうが、ずっと豊かだなどという思から、認知症の人が接客スタッフという「注文をまちがえる料理店」の取り組みに発展。

認知症のスタッフがサービスを間違えたとしても、だれも怒ったりはせず、そこから自然にコミュニケーションが生まれる空間が生まれます。間違いが起きてても笑って受け入れてしまえるような風景に、みんなが触れられたらいいなと、思いを語っています。

優劣による上下関係なく、つながりあい支えあえるのが人間の特性

現在でも採集生活を送る人々は、大きな獲物を村に持ち帰った男は、待っていた老人、女性、子どもたちに、当たり前のように、平等に獲物を分け与えています。分け与えるほうも、威張ることも見下すこともなく、受け取る人々も、卑屈になることなく当然のように受け取ります。(パプアニューギニアの採集生活 NHK「ヒューマン なぜ人間になれたのか」)

「人類が生き残った秘訣。私たちは信頼と協力関係を非常に大きな規模で築く能力を持っていることを認識すべきです。」(ユヴァル・ノア・ハラリ)

元来人間は自然の中で暮らしていくために、独占することではなく、分かち合うことで困難や課題を乗り越えてきました。そこには能力の優劣による上下関係なく、分かち合いつながりあう、人間だけの特性があるといわれます。

いつの間にか先生たちも「苦しい仕事」に、子どもたちも「息苦しい」学校に？

先生たちも上からの課題や厳しい評価に急かされるような仕事になり、子どもたちとの人間的なつながり、関わり合いが実感できないうえ、結果責任を常に問われ、保護者からも厳しい要求、クレームで、予防的な事前対応に汲々となり、いつの間にか「苦しい仕事」になってしまっている。

子どもたちも、増やされてきたテストや、細かな評価が増え、いつも「ポジティブさ」が求められるような活動の中で息苦しさに追い込まれ、不登校は急増の一途、教室に入りにくい「支援」を必要とする子どもたちの増加が止まりません。

「それでもつながり支えあえる社会」こそ教育のしごとでは

現在では、力のあるものが重い通りにふるまう世界の紛争、富を独占するもの、「優れた」ものが社会を振り回す分断と対立が広がっています。



目先の成果や、効率、手際の鮮やかさだけに目を奪われずに、人間の本来の特性をいかに子どもたちの中に大きく確かなものに育てられるかということが、今の教育に本当は問われているのではないのでしょうか。

新任の先生も、ベテランの先生も「引き出し」増やしにぜひ来て下さい！

2025新歓まなび庵 「新学期・クラスづくり 授業づくりアイデア交流会」

日時：4月5日(土) 14:00~16:30

場所：ラポールひらかた 3F 第1研修室

※終了後、交流会予定、食事しながら続きの交流、おしゃべりを。

新学期のスタートに当たって、クラスづくり、授業づくり、アイデア交流会を行います。去年も参加者から大好評。「いつもチラシを見て参加したいと思っていました。」と期待も反響も大きい学習会です。

これからのクラスづくりや授業づくりをどうしていけばいいのか、自らの経験をもとに、実践や教材を持ち寄って、話を聞けます。

もっとこんなこと聞きたい、こういう場合はどうしたらいい？職場では聞けないことも、気軽に質問できます。

実践報告 阪田優紀さん(桜丘北小)
実践・教材アイデア交流コーナー

どなたでも参加できます。
当日参加歓迎
資料代 300円



昨年の参加者の感想 「やってみたいアイデアがたくさん！」

- 4月忙しくてクラスのこと考える余裕がなかったので、始業式どうしようと不安でしたが、話を聞いて子どもたちとの出会いを明るく楽しいものにしたいと前向きな気持ちが芽生えました。
- いろんなゲームや身近で楽しく、体験しながら学べる方法を教えてもらって、ぜひやってみたいと思いました。話を聞くだけでなく、体験しながらできてよかったです。



事前参加申し込みリンク、当日参加も歓迎

全教(全日本教職員組合)の枚方教職員組合のニュースです 枚方教組に加入して学校や働き方を変えていきましょう